

日本精蠟株式会社

2026年12月期 第2四半期

決算説明資料

2026年8月14日

東証スタンダード 5010



日本精蠟株式会社

目次

■ 会社概要	P.02
■ 2026年12月期 第2四半期 業績概要	P.06
■ 2026年12月期 通期 業績予想	P.13

会社概要

スペシャリティワックスのグローバルリーダーとして いつも新たな価値をお客様にお届けします。

商号	日本精蠟株式会社
代表取締役社長	瀧本 丈平
設立	1951年2月10日（創業 1929年2月10日）
本社所在地	東京都中央区京橋2丁目5番18号 京橋創生館10階
資本金	1億円

従業員数	228名（単体） 277名（連結）（2026年6月末現在）
グループ会社	Nippon Seiro (Thailand) Co., Ltd. テクノワックス株式会社 周和産業株式会社 日精興産株式会社

事業内容

日本でただ1つ、ワックス＝蠟を専門に造っている会社です。今後も高い品質と技術によるスペシャリティワックスのグローバルリーダーとして、お客様に新しい価値をお届けします。

製品用途

● タイヤ向けワックス（ゴム用途）

ゴム製品にワックスを練り込み、表面に薄膜をつくることで、空気中のオゾンによるゴムの劣化・ひび割れを防止します。

● トナー向けワックス（インキ用途）

トナーにワックスを混ぜることで、トナーが紙に印刷される際に、にじみを防止します。

● 蠟燭

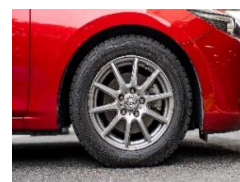
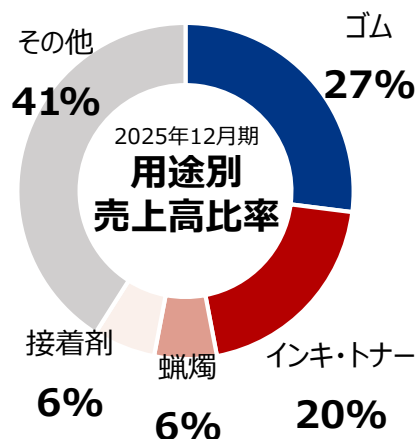
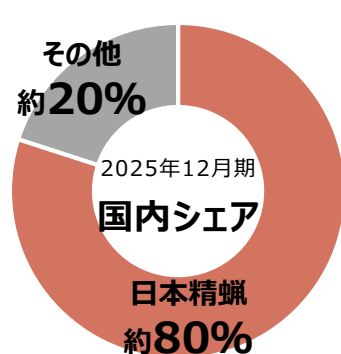
古くから神仏用として用いられ、近年は装飾用キャンドルとして、結婚式の演出やアロマキャンドルとして親しまれています。

● 接着剤用ワックス

接着性樹脂に混ぜて、流動性を持たせます。

● その他用途

食品、農林、化粧品など、幅広い用途に用いられています。



タイヤ



プリンタートナー



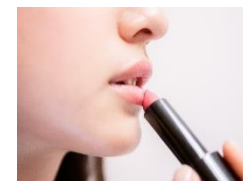
蠟燭



接着剤



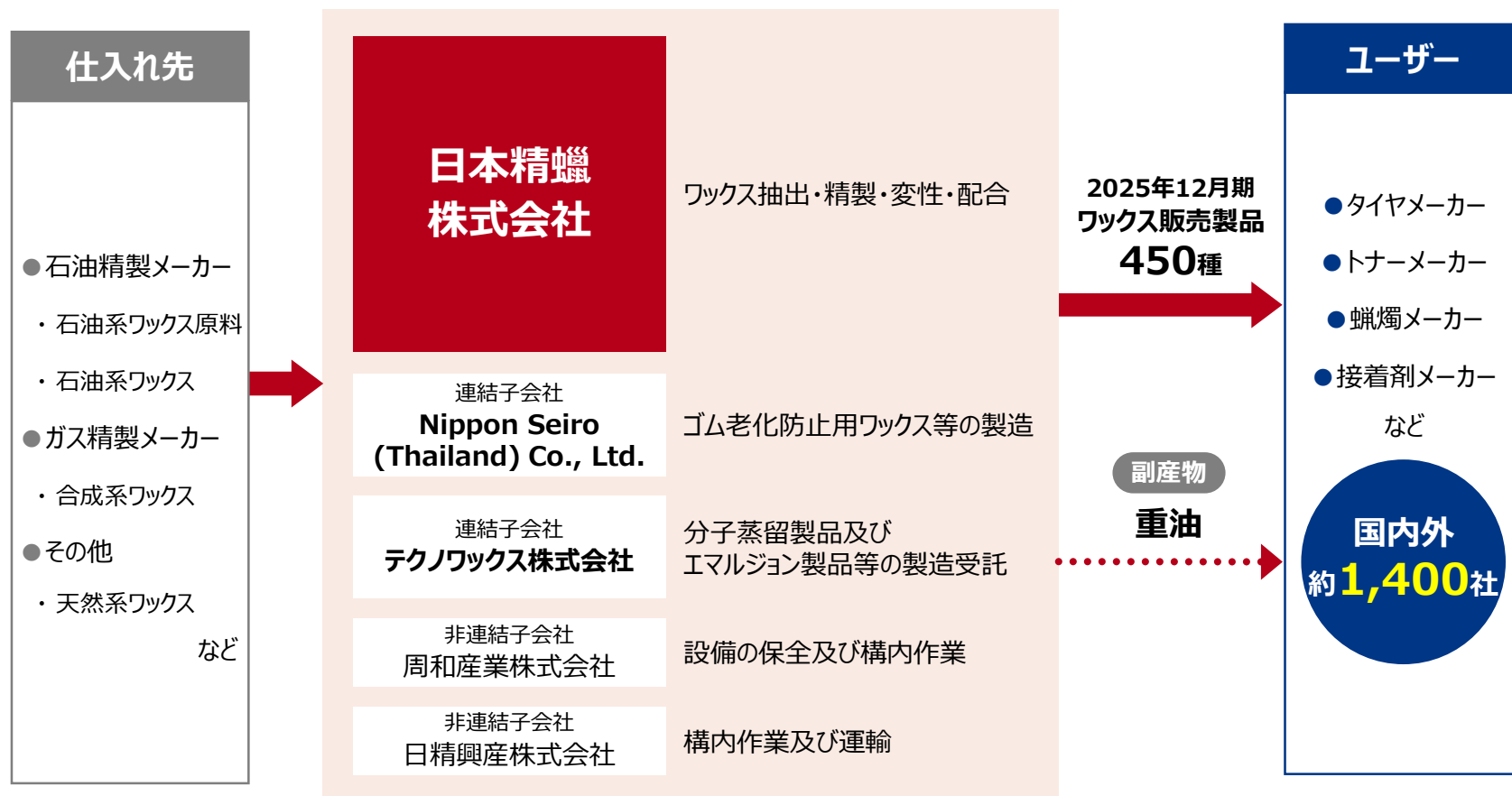
食品



化粧品

事業系統図

当社グループは主に石油精製メーカーからワックス原料を購入し、分離・精製・化学反応・配合をすることで、顧客(ユーザー)の求める性能・品質を持つワックス製品を製造し、様々な形状・形態で幅広い業界の顧客に当社製品をお使い頂いております。



2026年12月期 第2四半期 業績概要

2026年12月期第 2 四半期業績サマリー

上半期は、前年同期比で売上高・営業利益・当期純利益ともに増加しました。

(単位：百万円)	2025年 12月期	2026年 12月期			
	第 2 四半期実績	第 2 四半期実績	増減率	2026年 2月16日開示 通期予想	達成率
売上高	9,397	9,954	+5.9%	21,100	47.2%
売上原価	7,712	7,025	▲8.9%	—	—
販売費及び一般管理費	1,163	1,205	+3.6%	—	—
営業利益	521	1,723	+230.5%	1,800	95.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	266	1,156	+334.5%	800	144.6%
外部環境指標 Brent	\$71/bbl	\$93/bbl		\$70/bbl	
外部環境指標 Gas Oil	\$87/bbl	\$140/bbl		\$90/bbl	
外部環境指標 為替	148 JPY/USD	158 JPY/USD		155 JPY/USD	

販売の概況

ワックス

販売数量は国内輸出ともに前年同期並みとなった一方で、販売単価については4月よりサーチャージ制度(※)を導入したことで上昇しました。

■売上高	2025年12月期第2四半期			2026年12月期第2四半期			前年同期比		
	数量 [ton]	単価 [円/kg]	金額 [百万円]	数量 [ton]	単価 [円/kg]	金額 [百万円]	数量 [ton]	単価 [円/kg]	金額 [百万円]
国内	11,750	546	6,416	11,038	622	6,877	▲711	+76	+460
輸出	7,254	355	2,578	6,974	382	2,668	▲280	+28	+90
ワックス計	19,004	473	8,995	18,012	529	9,545	▲992	+56	+550

※原材料価格の高騰に対応した価格改定です。高騰が収束した時点で再度改定を行う予定です。

損益計算書（要約）

- ・ 徳山工場リニューアル計画に伴う老朽化設備の解体・撤去費用0.5億円、今後解体予定の貯蔵タンクの減損損失2.1億円を特別損失に計上しました。
- ・ 前年度に資本性劣後ローン（当初借入額30億円）のうち元本15億円相当額を期限前弁済したこともあり、前年同期比で支払金利の負担が0.6億円減少しました。

(単位：百万円)	2025年12月期		2026年12月期		第2四半期増減率
	第2四半期実績	通期実績	第2四半期実績	2026年 2月16日開示 通期予想	
売上高	9,397	19,776	9,954	21,100	+5.9%
売上原価	7,712	16,226	7,025	—	▲8.9%
売上総利益	1,684	3,550	2,928	—	+73.8%
販売費及び一般管理費	1,163	2,377	1,205	—	+3.6%
営業利益	521	1,173	1,723	1,800	+230.5%
営業外収益合計	83	110	38	—	
営業外費用合計	319	602	281	—	
経常利益	285	680	1,480	1,300	+419.3%
特別損益	▲14	▲60	▲262	—	
税引前当期純利益	270	620	1,217	—	+349.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	266	697	1,156	800	+334.5%



貸借対照表（要約）

- ・ 中東情勢緊迫化に伴う原材料及び製品価格の上昇を受けて、棚卸資産が増加しました。
- ・ 貯蔵タンクに係る特別損失を計上したことにより、有形固定資産が減少しました。

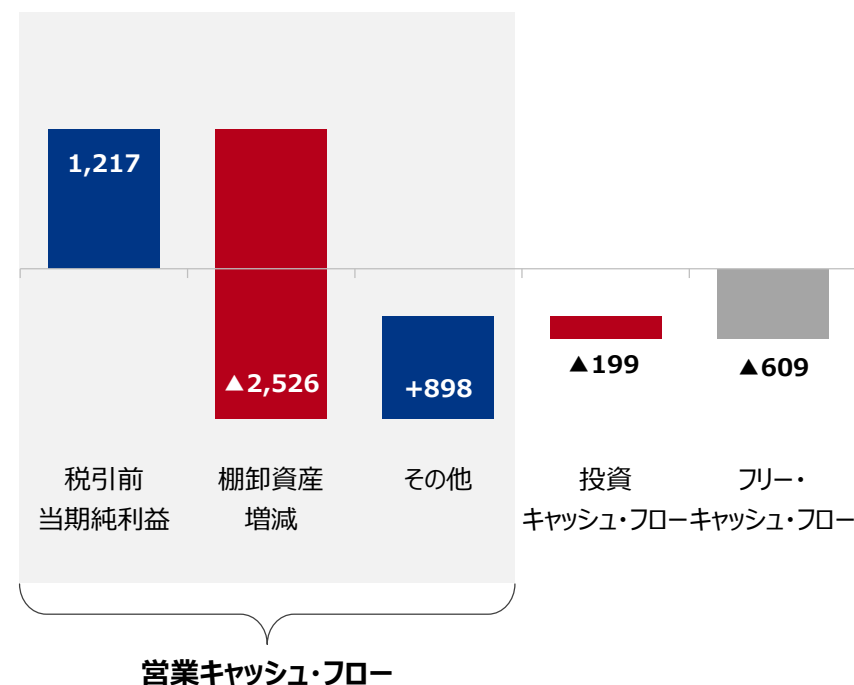
(単位：百万円)	2025年12月期 通期実績	2026年12月期 第2四半期実績	前期末比	
			増減額	増減率
資産合計	27,279	29,470	+2,191	+8.0%
流動資産	12,513	15,179	+2,666	+21.3%
現金及び預金	2,828	2,621	▲207	▲7.3%
受取手形・売掛金	2,332	2,491	+158	+6.8%
棚卸資産合計	7,229	9,770	+2,540	+35.1%
その他流動資産	122	296	+174	+142.6%
固定資産	14,766	14,291	▲475	▲3.2%
有形無形固定資産	13,946	13,491	▲454	▲3.3%
投資その他の資産	820	799	▲20	▲2.6%
負債合計	20,901	21,886	+985	+4.7%
流動負債	13,860	14,733	+873	+6.3%
固定負債	7,040	7,152	+111	+1.6%
純資産合計	6,378	7,584	+1,206	+18.9%
株主資本	693	1,849	+1,156	+166.8%
その他の包括利益累計額	5,684	5,734	+49	+0.9%
負債純資産合計	27,279	29,470	+2,191	+8.0%

キャッシュ・フロー計算書（要約）

税引前当期純利益は前年同期比で増加したものの、原材料及び製品価格の上昇による棚卸資産の増加に伴い、営業キャッシュ・フローは減少しました。

	2025年12月期 第2四半期 実績	2026年12月期 第2四半期 実績
(単位：百万円)		
営業キャッシュ・フロー	1,370	▲409
税引前当期純利益	270	1,217
棚卸資産増減	744	▲2,526
その他	355	898
投資キャッシュ・フロー	▲200	▲199
フリー・キャッシュ・フロー	1,169	▲609

■ 2026年12月期 第2四半期実績 (単位：百万円)



2026年12月期の主要な取り組み

**未来へ繋がる足場固め「基盤強化期」として、上半期は以下の項目を実施しました。
下半期も継続して実施して参ります。**

新規高付加価値ワックスへの集中

- 研究開発費を増額させ、外部機関との協業も行い、新規製品の開発を加速させます。

実績：R&Dセンター部門の増員、新規製品比率の目標値を設定

- ライスワックスのサンプルワークを開始し、インキ・塗料、化粧品用途等での展開を目指します。

実績：サンプルワークの開始

- 加工性に優れ、環境に優しい水系ワックスエマルジョンについては、インキ・塗料、建材、加工紙用途等を中心に拡販を図ります。

実績：インキ・塗料用途で品質改良した製品サンプルを顧客に提案

資本性劣後ローンの全額返済

- 当初借入額30億円のうち元本15億円相当額は前期に期限前弁済を実施しましたが、残額についても期中での早期返済を目指し、財務体質の健全化に努めます。

実績：残額のうち元本5億円相当額の返済を7月31日付で実施

基幹工場のリニューアル

- 徳山工場老朽化設備の解体・撤去を実施します。跡地には新製品の製造設備や、生産効率・品質の向上に寄与する設備の導入を予定しています。

実績：徳山工場老朽化設備の解体工事を6月よりスタート

2026年12月期 通期 業績予想

2026年12月期通期業績予想

上半期の事業状況を受けて、通期業績予想を修正します。

	2025年12月期	2026年12月期				
	通期実績	第2四半期実績	8/14開示 通期予想(B)	2/16開示 通期予想(A)	増減額(B-A)	増減率
(単位：百万円)						
売上高	19,776	9,954	21,900	21,100	+800	+3.8%
営業利益	1,173	1,723	3,100	1,800	+1,300	+72.2%
経常利益	680	1,480	2,700	1,300	+1,400	+107.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	697	1,156	2,000	800	+1,200	+150.0%

2026年12月期通期業績予想の修正理由

中東情勢緊迫化により、原材料価格が高騰しましたので、
その上昇幅に見合う販売価格の改定を行いました（サーチャージ制度の導入）。

● 上半期業績への影響

上半期においては、中東情勢緊迫化の前に購入した原材料も使用したことで、売上原価の上昇が原材料価格の上昇より遅れ、売上原価への影響は一定程度に留まったこと、加えて在庫単価が上昇したことにより、利益が当初予想よりも増加しました。



● 下半期業績への影響見込み

下半期においては、原材料価格に大きな変動はなく、上半期における原材料価格の上昇は下半期中に売上原価へ全て反映されると予想するため、当初予想からの業績の上昇幅は上半期よりも小さくなる見込みです。



来年度以降の業績について

● 来年度以降の業績への影響見込み

来年度以降、原材料価格が下落し、それに対応して販売価格を改定する局面では、価格下落前に購入した原材料を使用することで、売上原価の減少は原材料価格の下落に対して遅行することに加えて、在庫単価が低下することにより、当期の収益増加分の反動減が生じる見込みです。



中期経営計画について

中東情勢の今後の展開、それを受けた原油・石油製品などの市場環境の先行きを見通すことが困難である中、当社の来期以降の業績を見通すこと、また今後の市場環境の変化に対応する経営施策を策定することも、現時点では大変難しい状況です。

本年半ばの策定を予定しておりました新たな中期経営計画においては、今後の事業環境についての一定程度の合理性ある見通しを踏まえた経営施策、業績目標をお示しする必要があることから、策定期限を2027年2月に変更することとしました。

ディスクレーマー

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。

さまざまな要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

● 当資料に関するお問い合わせ

日本精蠟株式会社
経営企画課

Mail : ir-otoiawase@seiro.co.jp